

本単元でよく見られる生徒のつまずき

具体的な場面から連立方程式を立式できない。
 (例) 太郎くんは家から7000m離れた学校まで行くのに、はじめは自転車で分速400mで走っていたが、途中でパンクしたので分速100mで自転車を押して歩いたところ、ちょうど37分かかった。パンクした地点は家から何mの地点か。

事象を数学的に整理して考えることができず、どの数量を文字で表すか、どのような数量関係に着目して立式するかなど、見通しがもてない。

授業での指導の工夫

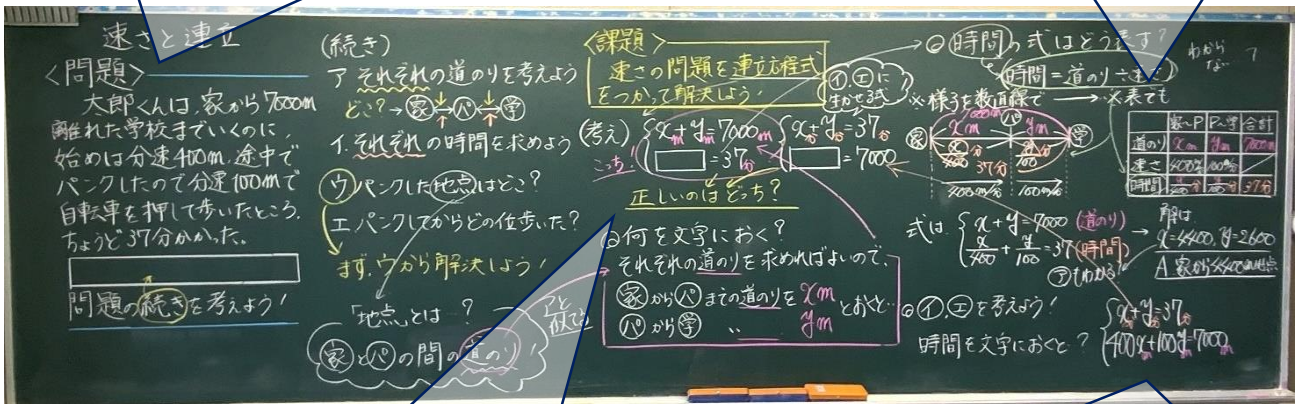
【本時の目標】 具体的な事象に関する問題を連立方程式を活用して解決することができるようにする。

【問題を工夫】

- ・「問題の続きを考える」活動を通して、分かっている数量や分かっている数量を深く考える場面を設定します。
- ・問題理解やその後の主体的な取組につなげることができるよう、問題を生徒の身近な内容に近付けることが大切です。

【図・表を工夫】

- ・表に整理する際、それぞれの数量の単位を記述します。
- ・道のり、速さ、時間の順に並べることで、時間＝道のり／速さを捉えやすくします。



【式を部分的に提示】

- ・個人思考で生徒が考えた式について誤答を含めて取り上げ、「立式の考え方は？」などと発問し、対話的な活動を通じて数量の単位に着目し、正しい式を考えることができるようにします。

【つまずきを活用】

- ・本時で扱わなかった式で問題を解決し、誤答を生かす場面を設けるとともに、連立方程式を用いて考えるよさや必要性について交流する場面を設定します。

授業づくりで大切にしたいこと

- 事象の数量関係を捉える方法の理解を促すための問題提示の工夫
- 式の一部を提示するなど、課題解決の見通しをもつ場面の設定
- 生徒の誤答を生かして学びを深める場面の設定